

# と し ょ か ん 宇 治

No. 14

1988年 2月1日 発行

宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

▽611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20)1511

そよかぜ号の車内



▲移動図書館  
そよかぜ号

## 四年目にはいった 中央図書館

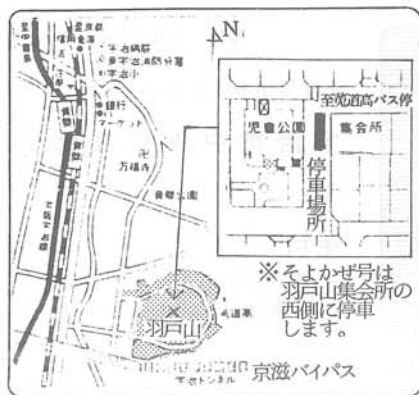
館長 五十嵐 一 郎

宇治市中央図書館は、昭和五十九年十一月から図書館サービスをはじめ、お蔭様で四年目を迎えました。貸出しも年々増加し、登録者も三万人をこえるなど、順調に市民のなかに浸透しているといえます。

貸出しを中心とする資料提供機能の基礎は、なんとか固まり、情報提供機能も昨年七月に、本庁との相互連携を軸とした行政資料コーナーを開設したことで、一段と活性化してきました。なんとか当初の目標は達成しました。次は名実ともに市民から頼られる生涯学習の拠点となるための努力をしていかねばなりません。今年もタツ年です。タツ年は激しくゆれ動く年とか。『竜頭蛇尾』にならないよう注意し、着実に進んでいかなければと考えています。

上の写真は、移動図書館車「そよかぜ号」です。昭和五十四年に現在の車に更新してから九年たちました。かなり車体の馬力も弱まり、全体としておとろえが目立ってきましたが、図書館サービスのもうひとつの基地として、図書館から二km以上はなれた地域に向向いています。六十一年度総貸出冊数の五分の一を占める活躍です。

昭和六十三年は、職員一同、更なる図書館の発展と飛躍を願い、竜のように雲を起し、空を駆けるように頑張ります。



## 4月より 羽戸山にステーションを 新設 !!

～移動図書館  
そよかぜ号～

現在、移動図書館そよかぜ号は一月内に市内二十四カ所を巡回していますが、昭和六十三年四月より、新たに羽戸山にステーション(駐車場)を設置します。(巡回日は四月一日付市政だよりを見てください。)羽戸山地区は近年、住宅開発が進み人口が急増している所で、誰でも、どこにいても本が借りられるという図書館の全域サービスの一環として、また、在任しておられる市民の方々の要望も踏まえて新設するものです。なお、駐車予定場所は左記のとおりです。

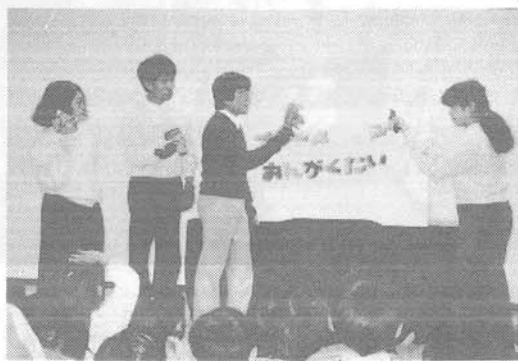
移動図書館は中央図書館と違って、世帯貸出となりますので、貸出申込を受け付けますと一世帯に一枚の貸出券を作成し、お渡しします。二十冊まで借りられ、予約・リクエストもできますので大いに利用してください。

## おはなしの プレゼントを ドッソリと

— 12月おはなし会 —

昨年十二月のおはなし会は、クリスマス・イブの二十四日に行なわれました。当日は一四七人の子供たちがおはなしの部屋をうめつくし、熱気が室内に満ちあけられました。

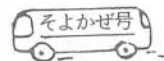
「クリスマススのまえのばん、サンタクロースがやってきた」の読み聞かせで始まり、静かなふんい気がただよいました。それが終わると、「クリスマス」のいろんな楽しい本について紹介があり、次は、大型紙芝居「ししときつね」の上演です。最後はいよいよ「ブレイメンの音楽隊」のパネルシアター。ロバやイヌ、ネコ、にわとりに扮したお兄さん、おねえさん



の名(迷)演で、場内は一気に盛りあがりしました。そして、たくさんのかわいい瞳が見つめる中、にぎやかな歌とともに約五十分のおはなし会もおしまいとなりました。クリスマススのまえの日、おはなしのプレゼントは子供たちの心にしっかりと届いたでしょうか。おはなし会は毎月第四木曜日午後三時半より行なっています。



## はしれ! そよかぜ号



今活躍中の移動図書館車そよかぜ号は二世ですが、それでも走り続けてもう九年目に入りました。毎月、元

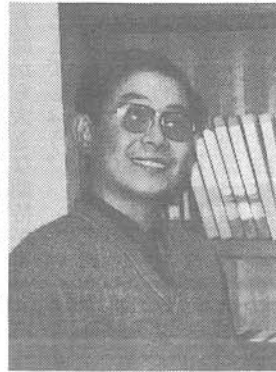
気にみなさんのところへ本を運んでいます。思わぬハプニングで登場できないこともありましたが、一昨年は、急な故障で、また昨年は、蔭山で工事中の為通ることができず断念しました。利用者の方は待っておられます。こんな時、どうしたのかとお思いでしょう。急ぎよ、そよかぜ号から本を箱に詰めかえ、ライトバンに積み込んでお届けしました。そこは、もうすっかり夜店の古本市の雰囲気、敷物の上に本がズラッと並びます。利用者のみなさんは、かがんだりしゃがんだりして本を選んでおられます。折りたたみの机と椅子で臨時の受付に座ると、職員も店番の気分です。みなさんからも「夜店みたいやなあ。」「さっきバスがないので帰りはった人もいたえ。」と声がかかります。ご迷惑をおかけしましたが、こんな時、そよかぜ号が常日頃、どんなに多彩な活躍をしているかあらためて認識したことでした。

# 図書館へようこそ

## 利用者インタビュー

第 3 回

菅 豊 彦 さん



主にテープ図書を借りていただいている菅さん。今回の「図書館へようこそ」は、横島グリーンタウンにお住まいの菅豊彦さん（四十歳）に登場していただきました。

— 図書館のご利用は……。  
昭和五十五年に目が悪くなりまして。点字は今、勉強中ですが、六十一年夏に図書館でテープ図書を貸出していることを知り、月に一回ぐらい借りに来ます。  
— 菅さんと本とのかかわりを聞かせてください。  
読書の楽しみを知ったのはテ

プ図書を聞き始めてからのことで、それ以前はあまり読んでいませんでした。今から思うともっと墨字を読んでおくべきだった、と思っています。感銘を受けた作品は司馬遼太郎の「坂の上の雲」です。  
— 図書館は菅さんにとってどんな所ですか。  
一冊の本を読んでも十人いれば十人違う感銘を受けるものです。また図書館では、自分の現在の状況と違った世界が見られ、非常によい所だと思います。

— 施設面での感想は……。  
図書館へ入るまでのレンガばりの階段の縁がわかりにくい。しかし、スロープは重宝しています。

— テープ図書について、ご要望がありましたらどうぞ。  
テープに印をつけ、郵送用のパッケージに入れて貸してもらえると、テープのタイトルや順序がわかりやすいのですが……。それからタイトル数をもっとふやしてほしいですね。

— 他に、ご意見があればお聞かせください。  
図書館が家から遠く、利用しにくい感じがします。できれば、他の図書館と相互利用ができればいいのですが……。

— ありがとうございます。

【質問】  
図書館で行なっている団体貸出とはどんな制度ですか。

【回答】  
図書館では、利用者一人一人に貸出券を発行して図書を貸出す「個人貸出」のほかに、まとまった冊数の図書を借りたいと希望する団体に、本の大量・長期貸出を行なっています。それが「団体貸出」です。

現在、この制度の利用団体は、市内十六の地域文庫・家庭文庫です。文庫とは、市民の有志（主として主婦）の方々が、子供たちに

### ご存知ですか？

ほしいという願いから、集会所などの一隅を借りてあるいは自宅の一室を開放して、ほぼ一週間に一度の貸出をおこなっている「子供と本の出会いの場」です。文庫では、貸出のほかに、読み聞かせや季節ごとのおたのしみ会などの催しも行ない、おたのしみ会では子供と一緒に人形劇やペープサート、大型紙芝居などを手づくりしたりと、楽しい雰囲気のもとに子供たちが本と親しめるようさまざまな活動を行なっています。  
図書館では、子供たちの読書啓



### 郷土のはなし

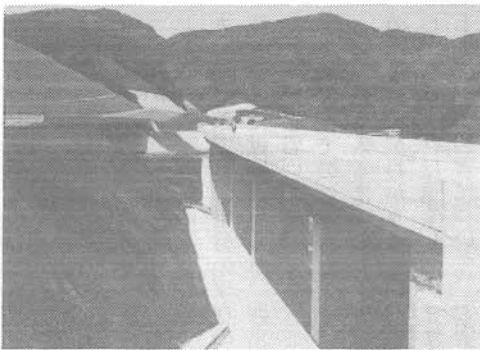
## 京滋バイパス

宇治川を跨ぐ橋が完成し、京滋バイパスはいよいよ、全線開通の日が近づきました。新しい「郷土の顔」として、京滋バイパスは各方面から大きな期待が寄せられることでしょう。

琵琶湖南部および京都南部は、現在市街化が急速に進み、今後近畿における開発の中核となることが予想され、将来は土地利用の高度化・交通需要の増加が見込まれています。京滋バイパスはこれらの状況に対応し、現在の国道一号线、名神高速道路の交通難緩和や沿道地域の交通サービスと発展を目的として建設されるものです。また、このバイパスは国道一号线の滋賀県草津市草津二丁目を起点とし、久世郡久御山町森の同国道を終点とする延長二七・〇kmの路線で、そのうちの名神高速道路から終点までの日本道路公団が工事を施行する二一・三kmの区間が有料道路となります。

宇治市内のトンネルは笠取トンネルと宇治トンネルの二箇所、このうち宇治トンネルは延長四・

三km、近畿では新神戸トンネルについて二番目の長さです。市内のインターチェンジ(名称はすべて仮称)は、笠取、宇治東(府道京都宇治線との交差点)、宇治西(国道二十四号線との交差点)、巨椋(大久保バイパスとの交差点)の四箇所を設置される予定です。宇治と滋賀県、中部方面等との距離は一段と短縮されることでしょう。供用開始は今年の八月の見込みで、宇治の歴史にとって京滋バイパスの開通は新しい一歩となるにちがいありません。



＜笠取から宇治トンネル方面を臨む＞

(日本道路公団大阪建設局京滋バイパス工事事務所発行の「京滋バイパスの概要」を参考にしました。)

## 本をかりるには

一 利用案内一

### 中央図書館

市内にお住まいの方、市内に通勤・通学されている方ならどなたでもかりられます。

- ・貸出は、1人3冊、3週間です。
- ・開館時間は、9時～17時です。
- ・休館日は、毎週月曜日・毎月末日 国民の祝日・年末年始 土曜・日曜もあいています。

### 移動図書館

- 月に市内24カ所を巡回しています。
- ・貸出は、1世帯に20冊までです。
- ・次回巡回日に返却して下さい。
- ・日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかせ号」巡回日程をご覧ください。

(中央図書館の場所)



## 編集後記

◆ 昨年の読書週間講演会で、竹内オサム氏よりマンガについて貴重なお話しをいただきました。これから、さらに「マンガ」

◆ 図書館の書架には、毎月新しい本がどんどん増えています。月一回発行の「新しく入った本のごあんない」。読書ガイドとして是非ご利用ください。

を考えていきたいと思っています。